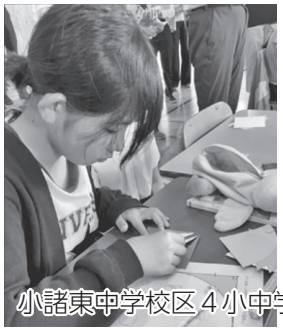
小諸市『学校再編』の進捗状況をお知らせします

「小諸市学校再編計画」に基づき、学校再編を進めています。

問　学校教育課　学校再編係


【写真】小諸東中学校区４小中学校合同 授業研修会の様子

今月号では小諸東中学校区での授業の取組みを紹介します。

「一人の子も取り残されない授業づくり」～学び合いを通した、深い学びを目指して～



７月３日㈮に、「小諸東中学校区４小中学校合同　授業研修会」が行われました。小諸東中学校区では昨年度からこの研修会がスタートし、今年で２年目となります。本年度は東小学校を会場として、６年生の算数、円の面積の単元終盤にあたる、複合図形の求め方の授業を通して、４小中学校の教員たちが学び合いました。

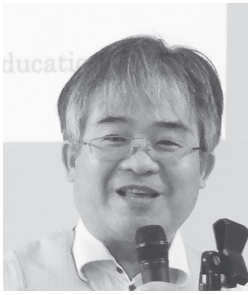
グループ内でお互い触発し合い、自分が必要とする情報や学び方を自らつかみ取る

まず子どもたちに図形の名前を考える場面を設け、図形に興味をもたせるところから始まりました。あるグループでは、「四角形の中に、丸をかいて線を引くといい」と言った児童が、グループの仲間に「(四角形をつくるために)どうやって線を引く?」と尋ねていました。それに対して、自分の考えを伝えるグループの仲間たちがいました。一方的に教えるでもなく、一緒に「学び合う」姿がありました。

ジャンプの課題が始まると、すぐに机の上に置いてあったいろいろな図形にカットした色紙を動かして、葉っぱ型を作り始めた児童がいました。この姿を見て、グループの仲間も同じように色紙を操作し始めました。視覚的にグループの仲間から自分にとって必要な情報や学び方を手に入れていきました。グループでの学びでは、居ながらにして自分にとって必要な情報や学び方を手に入れる契機が常に用意されており、それによって課題解決の見通しをつかんでいくことがわかりました。

グループで学んだことを全体の「共有財産」としていく

その後の全体共有の場面では、何人かの子どもたちは前に出て、自分たちが考えた図や式を使って説明していました。自分の考えと比べて、自分がなぜこうやって求めようとしたのかもう一度考えたり、自分にない視点をもつことができたりする姿がありました。またある児童からは「自分が知っている形にする」という発言があり、その考え方を共有できました。グループで考えたそれぞれの学びに新たな視点が取り入れられ、より深く学んでいくことにつながっていくことがわかりました。



授業研究会で講師を務めた村瀬先生から

講師の村瀬先生からは、「グループの位置づけは、できた意見や考えを伝える場であり、私の考えをつくるために、お友達の頭も借りるということ。そういった「私の考え」を自分の言葉でまとめ、そこでまとめた「私の納得」を活用する場を設けることが大切。」といった指導をいただきました。

麻布教育ラボ所長 村瀬 公胤(まさつぐ) 先生